

～認知症患者さんの その人らしさを大切に～

認知症看護認定看護師 谷川 裕子

認知症の方は、認知機能低下から他者へ自分の思いを伝えることや環境の変化に適応することが苦手になり、日常生活に思わぬ支障がみられたりすることがあります。高齢化率の上昇に伴い、『2025年には65歳以上の約5人に1人が認知症』と言われていた中、誰にでも起こり得る認知症について理解を深め、症状をコントロールする工夫を知ることが重要です。

認知症患者さんのその人らしさを大切にしたいケアを行いたいと思い、認知症看護認定看護師となり、現在私は2年目を迎えました。入院された認知症患者さんが安心して治療を受けられ療養できる環境を整えられるだけ入院前の生活機能が維持できるように努めています。

認知症症状のコントロールと 生活の中での工夫

認知症患者さんにとって入院という環境の変化はとても大きなストレスです。普段の生活から離れ、検査や治療、手術に対する不安感や緊張、拘束感は、精神症状や生活行動を悪化させます。そのような中、私たち看護師は正面から向き合い患者さんが何を伝えたいのかを考え、笑顔を引き出せるように関わっています。特に睡眠は大切で、薬による様々な症状コントロールは欠かせません。同時にご家族との時間や生活の場も大切です。自宅で使い慣れた時計やカレンダー、生活用品などを持ってきてもらい、できるだけ入院前の生活の場に近づけるように支援しています。また、絵を描いたり身体を動かしたり、音楽を聴くなど生活を重視した余暇



活動やリハビリテーションも行っています。患者さん個々の病状や症状を捉えながら安心して治療を受け退院できるように、医師や多職種とカンファレンスを行い、認知症チームとしても活動しています。



認知症看護について スタッフと学び合い・伝え・深める

浜田市は高齢化率が37%であり、全国平均の高齢化率より上回っています。また当院へ入院される高齢患者さんも、大半が独居や老老介護で生活されています。認知症患者さんの対応において、病棟では時に経験の少ない看護師が戸惑いを持ちながらケアしている場面に遭遇します。定期的に認知症看護を学ぶ院内研修を行っていますが、同時に各病棟で認知症看護を実践するリーダー的存在のリンクナースを配置しています。一人ひとりの認知症患者さんに『その人らしさを大切にしたいケア』が行えるように、リンクナースと共に看護スタッフの育成にも関わっています。

